

井川町教育委員会 1 月定例会会議録

1. 日 時 令和3年1月25日（月）午後1時30分～午後2時50分

2. 場 所 井川町農村環境改善センター

3. 出席委員

教育長	六郷博志
委員	幡宮明貞
委員	齋藤正仁
委員	遠藤勇人
委員	小武海文恵

4. 欠席委員

なし

5. 会議に出席した事務局職員

事務局長	湊和樹
事務局主事	石川知里

6. 会議

(1) 報告事項

- ①秋田県学習状況調査結果について
- ②義務教育学校進路状況について
- ③第3回教職員研修会について
- ④教育委員会・公民館・学校関係行事について

(2) その他

7. 情報交換

8. 会議の経過

事務局長 今定例会の議事録署名員に齋藤委員、小武海委員を提案。
(全員提案を了承)

教育長 始めに(1)報告事項の②義務教育学校進路状況について及び④教育委員会・公民館・学校関係行事について事務局に説明を求める。

事務局長 (現時点での9年生の進路状況について及び2月と3月の行事予定について説明)

委員 卒業式の来賓の参列者を絞るそうだが、具体的には。

教育長 町長、議長、教育委員、学校応援協議会の委員のみ参列予定である。児童生徒については、5年生以上が参列する。入学式も来賓については同様の予定で、児童生徒は半分程度が参列する予定だ。

教育長 続いて①秋田県学習状況調査結果についてと③第3回教職員研修会について説明をする。(学習状況調査結果の分析について説明。「素直で従順」な井川の子どもたちが、学年が上がっても「繰り返しドリル」と「丸ごと暗記」という学習方法から抜けられず、学習内容についていけない層が拡大しているのではないか。)

委員 なるほどと思わされる資料と説明であった。先生達の反応はどうだったか。意見交換等も行ったのか。

教育長 よく聞いてくれていた。進めながら問いかけて意見等を聞いていった。

委員 在籍している先生方は50代が多いと思うが、プリントで穴埋め問題をやったり教え込んだりすることが多いように感じる。家庭学習ノートが掲示されているのを見たが、繰り返し書いたりしているものが多くあった。こういった結果の分析をすることは非常に大事だと改めて実感している。

教育長 しっかり文章が読めれば知識がなくても解ける問題が解けていない。

委員 結果分析の説明の中で、成績が上位と下位に二分化されているという説明があったが、学習の内容が簡単で先生が説明して覚えるように指導していくとこのようになる。学習のレベルを上げないと上位は育っていかない。学習のレベルが上がると下位が付いていけないと考えがちであるが、わからないところを質問していきながら付いていくことによって力が付いていく。そうすると全体的なレベルが上がっていく。一番の問題は、先生方が丁寧に教え込むという感覚が全体的に強いところ。学校全体で変えていかないといけない。あと、自分がわからないところを人に聞く習慣や場を作ってあげることが大切だと思う。

教育長 前期課程のうちに教え込む方法をやめないと、学年が上がっていくにつれて問題の意味が読み取れない等影響が出てくる。

委員 子ども達はなかなか「わかりません」と声を上げづらい。言い出しやすいような雰囲気作りが必要だ。「わからないこと」って大事

だよ、「わからないことを聞くことが大事だよ」と小さい頃から教えていくべき。「わかる」ことよりも「わからないことを自分で頑張っ
てわかるようになること」の方がずっと大事である。

教育長 井川は英語の成績が非常に良い。先生の異動があったとしても英語の成績だけはずっと好調である。暗記が必要な段階では実力を発揮するのではないかと思っている。

委員 インプットしてアウトプットすることで学習が身につく。基礎を使って問題を解くことで基礎がしっかり身につく。

委員 調査結果の分析説明を聞いて納得し、なんとかしなくてはいけないなど思っている、そこから先の一步が進まないというところが問題である。先生達が授業研究のための時間がないように思う。教職員の時間外勤務への対応をしていた際、何か話は出なかったか。

事務局長 そこまでの余裕がないといった話はその場では出ていなかった。
教育長 どのような取り組みをしていくかということは学校と相談していきたい。

委員 インプットとアウトプットの話が出たが、学校では例えばテーマを決めて一言スピーチ等で自分の考えを発表するなどそういったことはしているのか。

教育長 昔に比べてそういった機会は増えていると思う。子どもの人数が減ってきていることもあり回数は多くなっていると思う。

教育長 家庭学習や長期休みの宿題のドリルなどやり方を変えないといけないところもあるかもしれない。

委員 長期休みの宿題でドリルを出さず自分でテーマを決めて調べ学習をさせている学校があったが、学校全体の成績は良かった。ドリルをやる・やらないは成績の良し悪しにそんなに影響しないのではないか。

教育長 低学年の担任の先生は、漢字の書き方など何回も繰り返しやらないと身につかないこともあるのでドリルも十分必要であるとのことだった。

委員 内容によってはドリルが必要なこともあると思う。漢字などは繰り返し学習するしかない。ただ、何でもかんでもドリルというわけではないと思う。

委員 家庭学習ノートを2ページ埋めないといけないため、漢字を何回も繰り返し書いたり事務作業のようになってしまっていて、しっかり身につけていないのではないかと思っていた。別の自分が好きな内容にしてみてもいいんじゃないかと提案してみても、はみ

出したことをやってはいけないという認識があるみたいで、なかなか変えられない。例えば先生から違うことを投げかけられたらすぐ反応してできそうだと思う。

委員 こういった分析の結果を教育長が教職員研修の場で話してくれることは、先生達への訴えかけることになっていると思う。これからも引き続き続けていって先生達にわかってもらえるようにしてほしい。一人の先生だけがやるのではなく、全体で取り組んでいくという意識の盛り上げ方はとても大事だと思う。

教育長 この会議で挙げた内容を学校に伝えながら、引き続きサポートをしていきたい。

教育長 (他に無いことを確認して定例会を終了)